

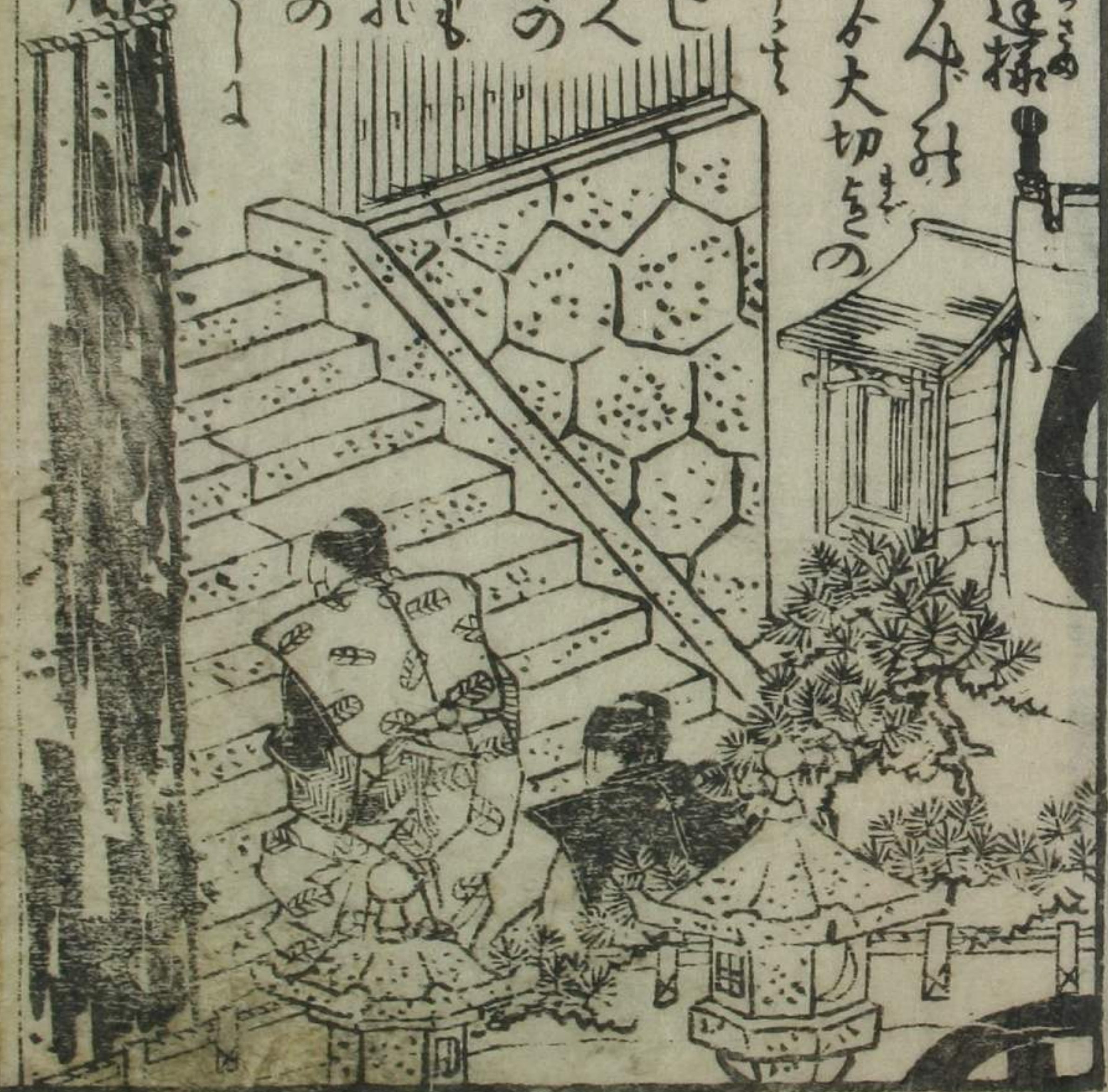
繪本
 忠臣藏新上
おどけ ちゆうしん くらげ かしら

八連 13
 2419
 1



大正五年
室井平藏氏

此書は神子達様
 忠臣蔵大序方大切の
 再回とありし事
 上は新巻のおじ
 さまとてうきを
 男童様女児様の
 おとぎ話の紙と
 をあがめしりし
 ともども昔の
 らひりの月さ
 あんらと
 ねんらのあ



へ達
 2717
 1-2

室井平藏氏

忠臣蔵

大序 忠臣蔵

みごん

つるが園よ地あてきんや
判官の沖登るはよ
沖登るより良のうがと
実檢の中とうちひらま
うらむうらふの師直
出さううらうらうはよ
分とうけあけしがきけ
よいしゆびとむいよと
きたれは上りせんも神
のほとちうらうらうが女のこせ



とてあうらうらうらうらう
幕のゆき引さうらうらう
判官のゆき引さうらうらう
らりし今さうらうらうらう
まはらうらうらうらうらう
がらつらうらうらうらうらう
してあけりしが判官つらうらう
さうらうらうらうらうらう
幕のゆき引さうらうらう
えられ二人ともさうらう
ととらびれた判官ぬらうらう
えらうらうらう
えらうらうらう



小唄
 此と申すて宵の
 梅が咲くを
 見ては
 梅の枝と
 梅の葉と
 梅の影と
 梅の香と
 梅の味と
 梅の色と
 梅の形と
 梅の姿と
 梅の容と
 梅の貌と
 梅の相と
 梅の状と
 梅の勢と
 梅の力と
 梅の徳と
 梅の業と
 梅の縁と
 梅の因と
 梅の縁と
 梅の因と



小唄
 此と申すて宵の
 梅が咲くを
 見ては
 梅の枝と
 梅の葉と
 梅の影と
 梅の香と
 梅の味と
 梅の色と
 梅の形と
 梅の姿と
 梅の容と
 梅の貌と
 梅の相と
 梅の状と
 梅の勢と
 梅の力と
 梅の徳と
 梅の業と
 梅の縁と
 梅の因と
 梅の縁と
 梅の因と

○六段目

小唄
 此と申すて宵の
 梅が咲くを
 見ては
 梅の枝と
 梅の葉と
 梅の影と
 梅の香と
 梅の味と
 梅の色と
 梅の形と
 梅の姿と
 梅の容と
 梅の貌と
 梅の相と
 梅の状と
 梅の勢と
 梅の力と
 梅の徳と
 梅の業と
 梅の縁と
 梅の因と
 梅の縁と
 梅の因と





しんまがらひらきとてまきまき
ばんまゆととらりーい
そののふーアイ 幼平
しめつうーいんとん
つがいのへるんトであ
かろうんてーいん
こと昔まゆむとへあへし
こんとらら 幼平よ
そんちゆめらーゆ
まーいぬ
あーのまゆと
耳のゆめ
おんてあ

